

# 「緊急地震速報の利活用状況等に関する調査」結果概要

## 1. 目的等

緊急地震速報の内容及び提供方法等の改善に活かす基礎資料の収集

## 2. 調査内容

- ①速報の利用状況と住民意識(入手方法、認知度、理解度など)
- ②速報を見聞きした際にとった行動(とった行動、予定してた行動、行動できなかった理由等)
- ③速報に対する評価(役立っているか、実現して欲しいことなど)

## 3. 調査方法等

### 1) 調査の対象とした地震

東北地方太平洋沖地震及び、以降に発生した地震(調査回答者の印象に残っている地震)

### 2) 調査方法

調査地域	調査方法	回答数等(内訳は別紙)
①3.11の地震で揺れの強かった岩手、宮城、福島県の13地域	郵送調査	817名(依頼5,500名のうち15%)
②過去に速報を発表した22都道府県	WEB調査	2,000名(依頼10,000名のうち20%) 受信方法によって テレビ・携帯等で受信 1,600名 専用端末で受信 400名 となるよう調整(スクリーニング)  前者をWEB調査一般、後者をWEB調査高度に分類

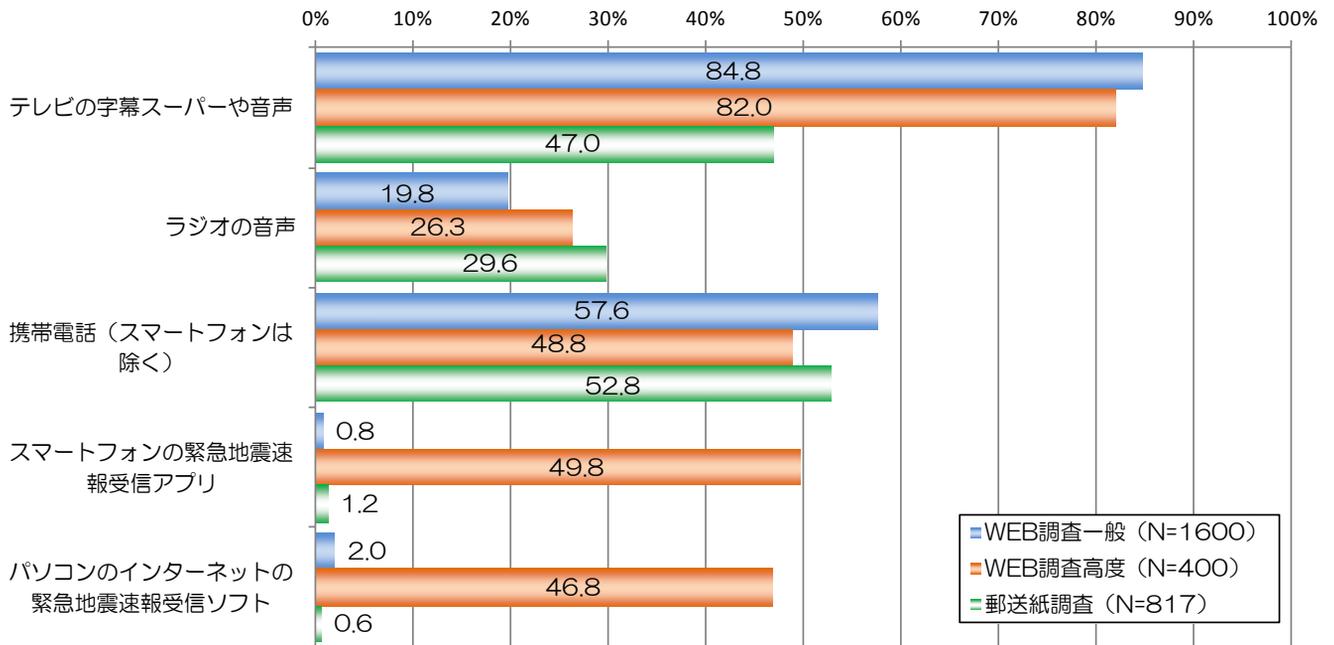
### 3) 調査実施日

郵送調査	平成24年2月3日～2月8日
WEB調査	平成24年1月30日～2月8日

# 4. 主な調査結果

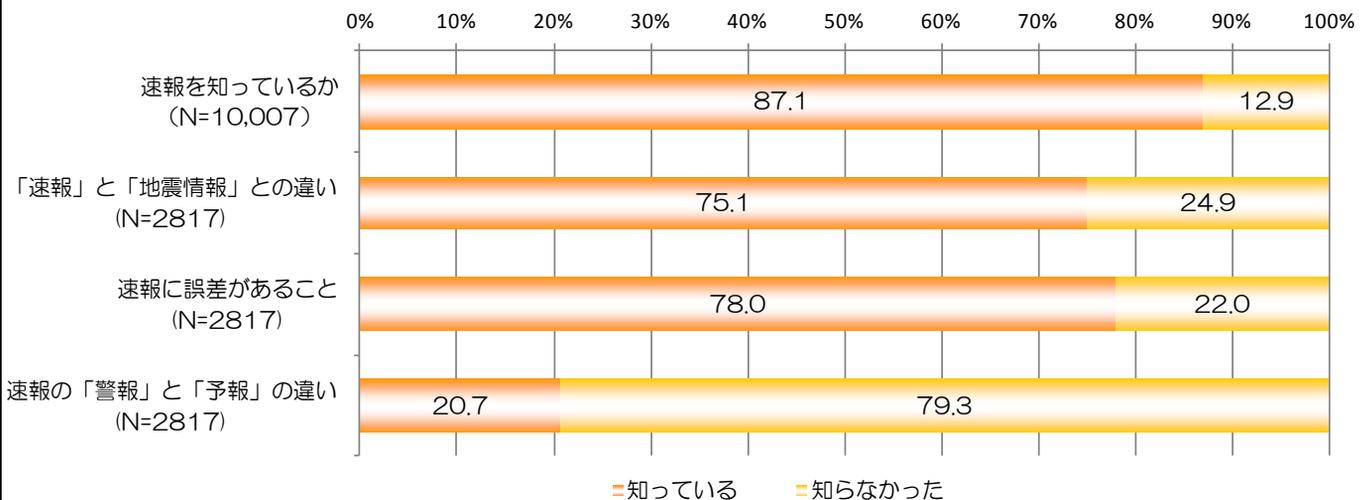
## ① 利用状況と認識

### 【緊急地震速報の入手方法】



(複数回答)

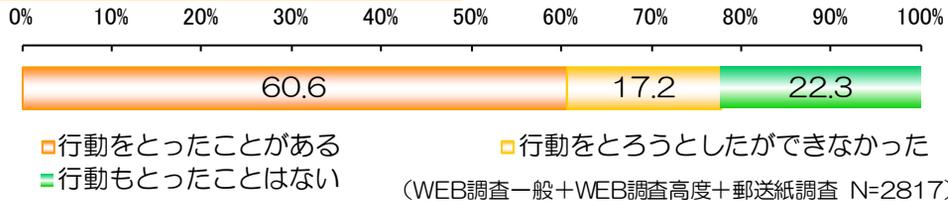
### 【緊急地震速報に関する認識】



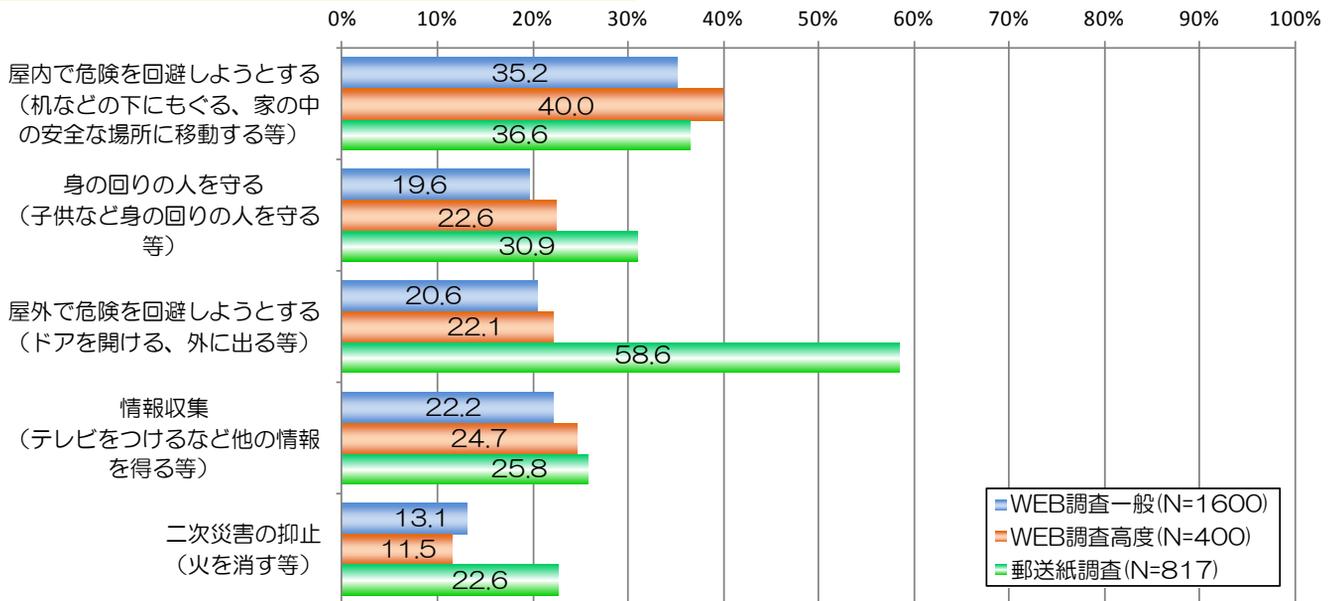
# 4. 主な調査結果

## ②速報を見聞きした際とった行動

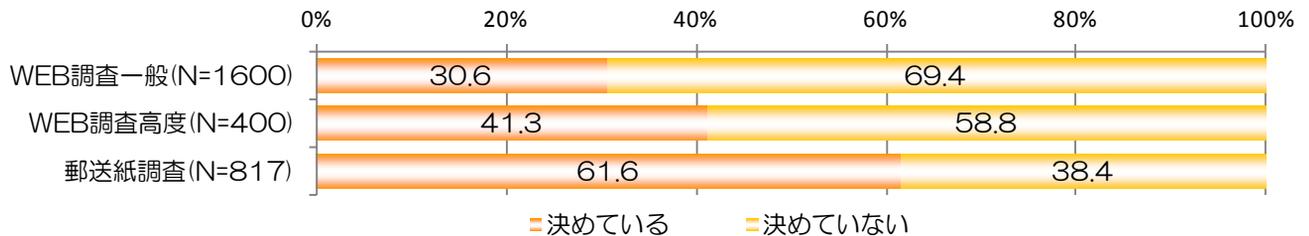
### 【危険回避行動をとったことがあるか】



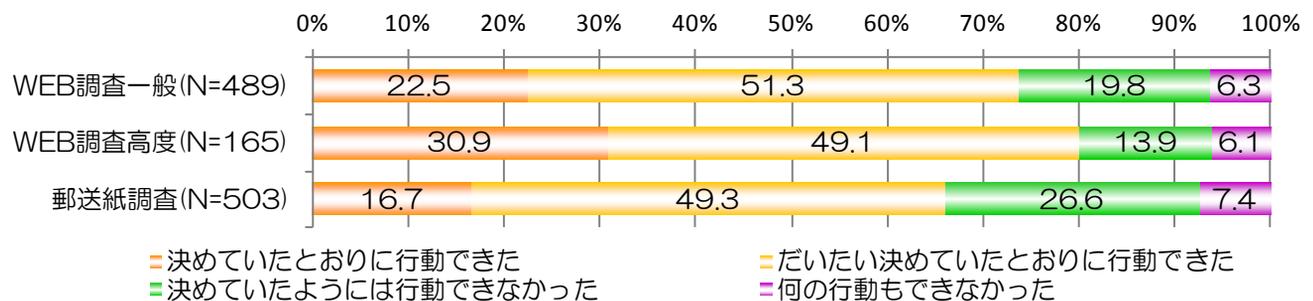
### 【危険回避行動の内容】



### 【とるべき行動を予め決めているか】



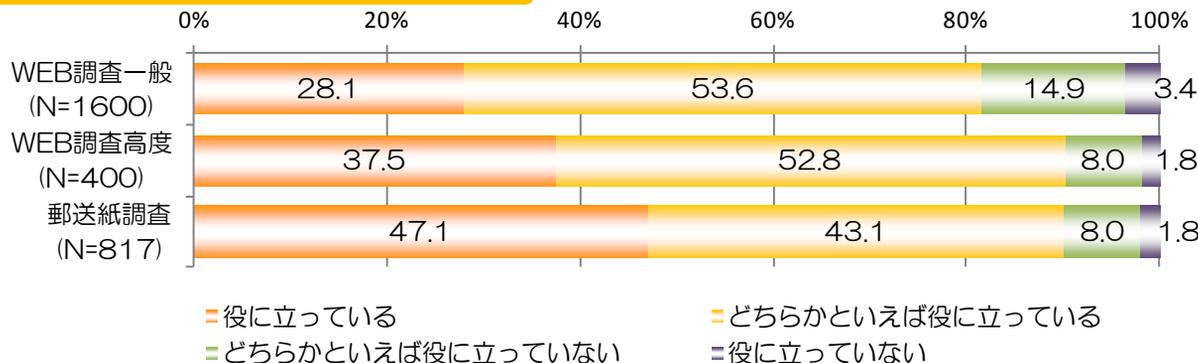
### 【予め決めていた行動ができたか】



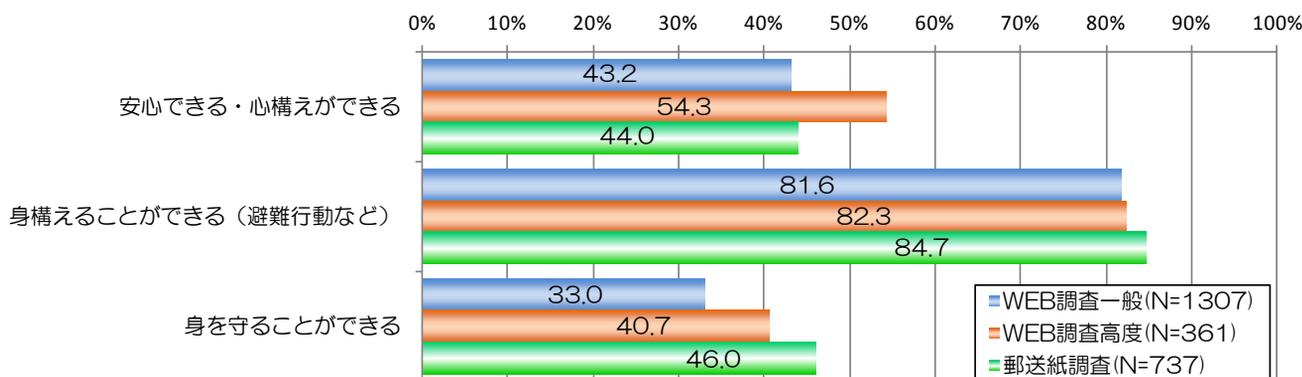
# 4. 主な調査結果

## ③速報に対する評価

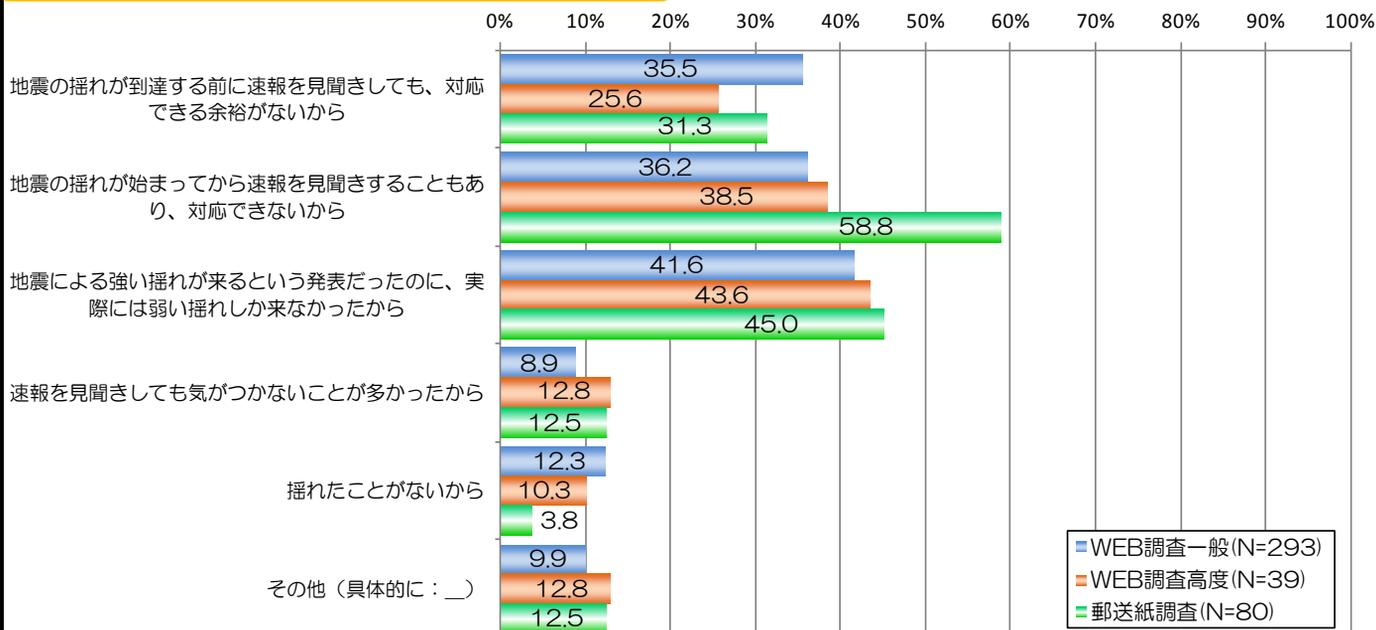
### 【速報は役に立っているか】



### 【役に立っていると思う理由】

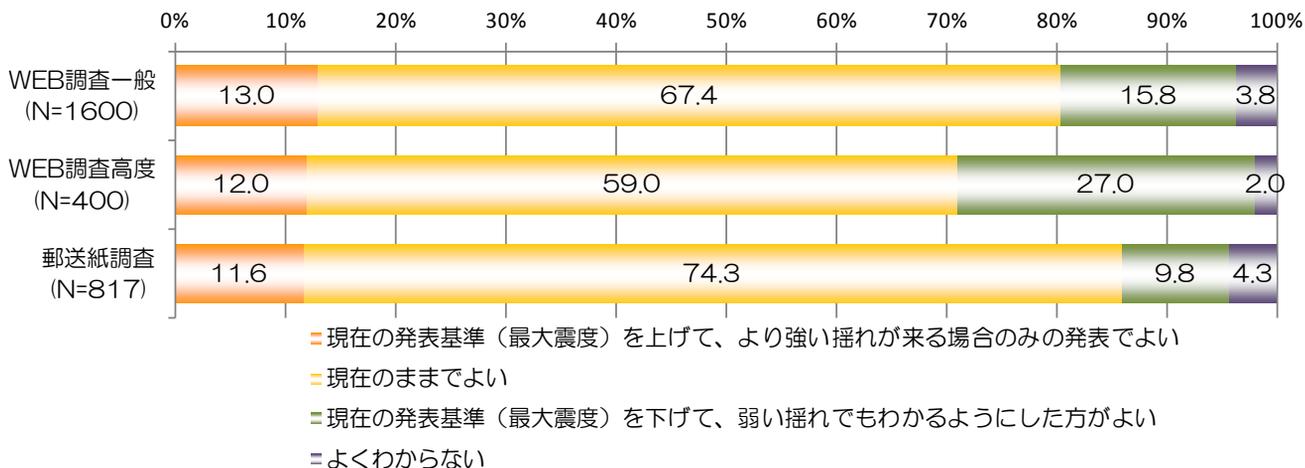


### 【役に立っていないと思う理由】

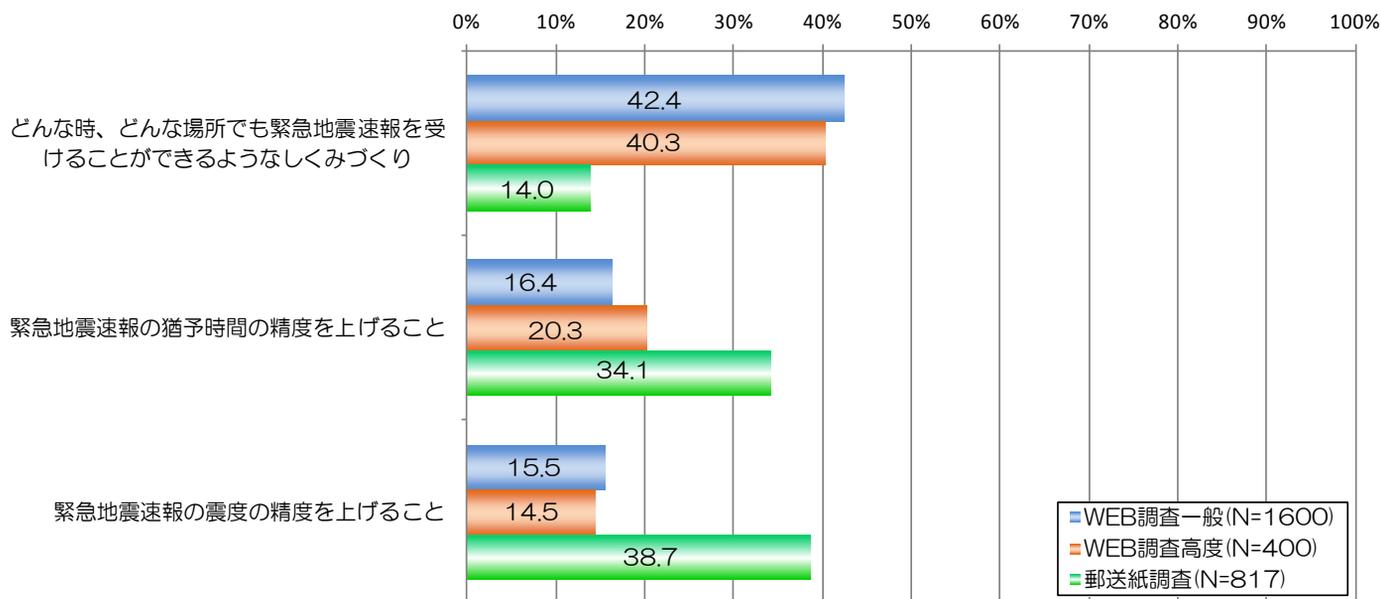


# 4. 主な調査結果

## 【速報の発表基準についての意見】



## 【利用する上で最も実現してほしいこと】



## 5. 調査のまとめ

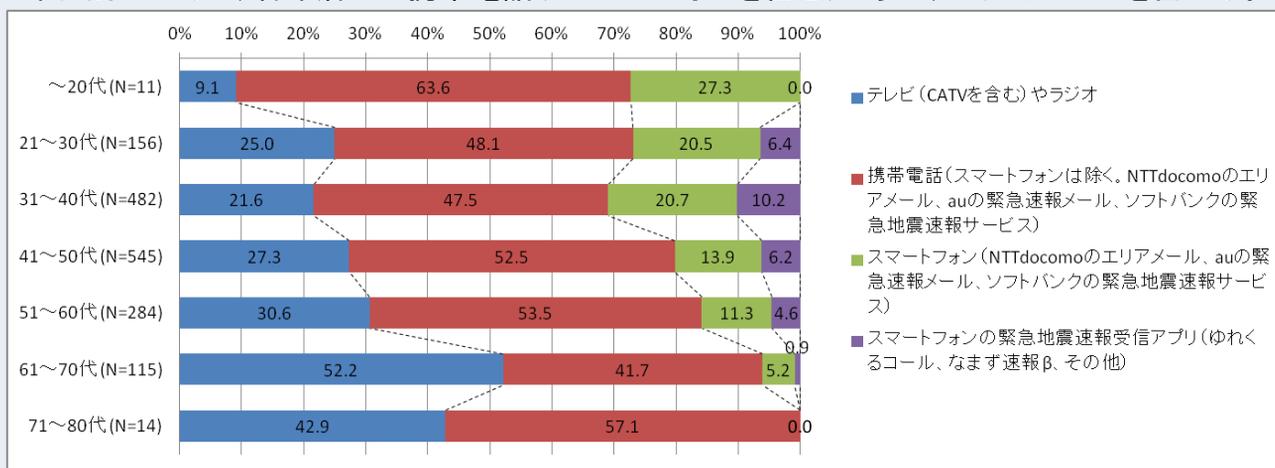
### 1) 利用状況、住民意識

#### ◆緊急地震速報の入手方法について(複数回答)

- ・「テレビ」が最も多く(WEB調査(一般85%、高度82%)、これに次いで「携帯電話」が多い(WEB調査一般58%、高度49%)。郵送紙調査(シングル回答)では、「携帯電話」が「テレビ」を少々上回る結果となった。
- ・WEB調査で専用受信装置等を利用している人では、テレビ(82%)に次いで、スマートフォンのアプリ(50%)、パソコンのフリーソフト(47%)が多い。

#### ◆今後、入手したい方法について

- ・携帯電話が最も多く、次いでテレビが多い。
- ・年代別にみると、若年層ほど携帯電話(スマートフォンを含む)が多く、20代では90%を占める。



年代別の入手したい方法(WEB調査)

#### ◆認知、理解状況について

- ・「緊急地震速報を知っている」人は約9割である。
- ・「予測震度に誤差があること」など、速報の特性を理解している人は既往調査と変わらず7割強である。

#### ◆予報と警報の違いについて

- ・緊急地震速報には、発表基準や伝達方法の異なる「予報」と「警報」の2種類あることを知っている人は2割である(WEB調査一般19%、WEB調査高度33%、郵送調査18%)。

郵送調査:「東北地方太平洋沖地震」で揺れの強かった岩手、宮城、福島3県の任意の800名への郵送による調査

WEB調査:過去緊急地震速報(警報)を発表した22都道府県の事前登録モニター2,000名へのWEBによる調査

この内、専用の受信装置等を利用している人をWEB調査高度(400名)、そうでない人をWEB一般(1600名)に分類

## 5. 調査のまとめ

### 2) 緊急地震速報を見聞きしたときの行動

#### ◆行動をとった人

- ・緊急地震速報を見聞きした際、何らかの危険回避行動をとったことがある人は概ね6割である。
- ・行動した割合は郵送調査(74%)、WEB一般(61%)、WEB高度(54%)の順に高い。
- ・行動しようと思ったができなかった人は2割弱存在している。

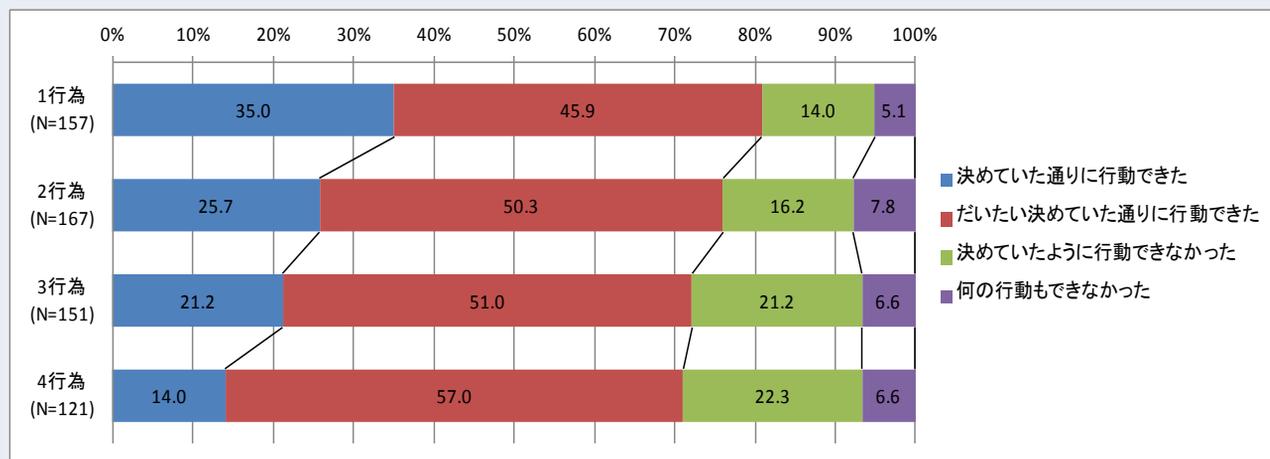
#### ◆とった行動の内容

選択肢カテゴリー	WEB一般	WEB高度	郵送調査
①屋内で危険を回避しようとする	35%	40%	37%
②身の回りの人を守る	20%	23%	31%
③屋外で危険を回避しようとする	21%	22%	59%
④情報収集	22%	25%	26%
⑤二次災害の抑止	13%	12%	23%

- ・安全な場所に移動するなど「危険回避行動」をとった人が最も多く、次いで「身の回りの人を守る」、「テレビをつける」など「情報収集」が多い(行動は多様である)。
- ・郵送調査では、危険回避行動の中でも「ドアを開ける」など屋外へと行動しようとした例が多い。

#### ◆予め決めていた行動と実際できた行動

- ・とるべき行動を予め決めていた人はWEB調査(一般31%、高度41%)に比べ、郵送調査は62%と多い。
- ・とるべき行動を予め決めていた人は、実際の行動に結びつく傾向が見られる。
- ・予め決めていたにもかかわらず行動できなかった理由は、「突然で動転した」、「猶予時間が足りなかった」がほとんどであった。
- ・「猶予時間が足りずに行動できなかった」と回答する人に、複数の行動をしようとして決めていた傾向がみられる。



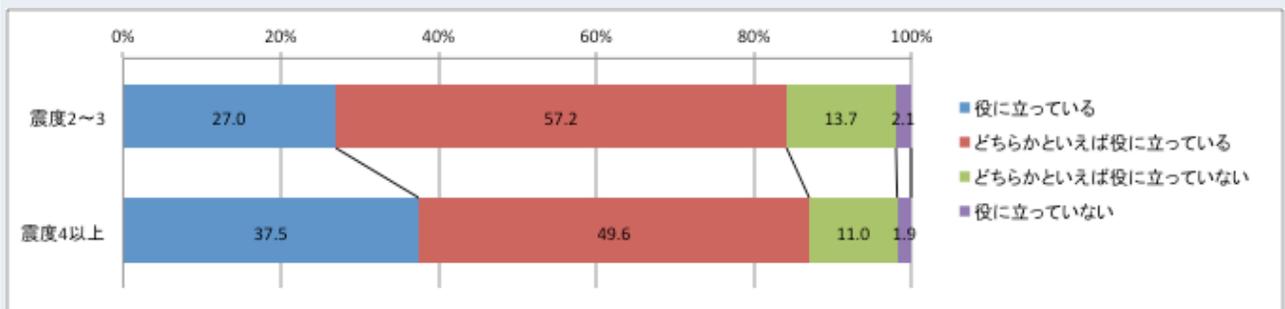
予め決めていた行動の数に対して、実際に行動できた割合

## 5. 調査のまとめ

### 3) 緊急地震速報の評価

#### ◆「役立っている」と考えている人の割合

- ・8割以上の人々が「役にたっている」または「どちらかといえば役にたっている」と考えている（WEB調査一般82%,WEB調査高度90%、郵送調査90%）。
- ・役に立っている理由は、「身構えることができる」が最も多い。
- ・役にたっていない理由は、WEB調査では「実際には弱い揺れしか来なかった」が最も多く（WEB調査一般42%,WEB調査高度44%）、郵送調査では「揺れてから受信することがあり対応できる猶予時間がない」が最も多かった(59%)。
- ・緊急地震速報を見聞きした後に実際に感じた地震の揺れが強いほど速報に対する評価が高い傾向が見られる。



速報を見聞きした後に感じた揺れの大きさと、役立っているかどうかの割合

#### ◆発表基準について

- ・緊急地震速報（警報）の発表基準（最大震度5以上で震度4以上が予想される地域に発表）については、「現状のままでよい」が最も多い（WEB調査（一般67%,高度59%）、郵送調査74%）。
- ・「発表基準を下げてもわかるようにしたほうが良い」は、WEB調査（一般16%）、郵送調査(10%)に比べWEB調査（高度27%）が高い。

#### ◆利用する上で最も実現してほしいこと

- ・WEB調査では、「どんな時、どんな場所でも受けることができる仕組みづくり」が最も多い（WEB調査一般42%,WEB調査高度40%）。
- ・一方、郵送調査では「予想精度を上げること」が最も多く39%、次いで「猶予時間の精度を上げること」が34%であったが、「どんな時、どんな場所でも受けることができる仕組みづくり」は14%にとどまった。

## アンケート回答者の内訳

## ◆都道府県別

## ①郵送調査（回答者の内訳の地域は不明）

県	配布地域	配布数
岩手県	一関市室根町	954
	釜石市中妻町	340
	大船渡市大船渡町	322
宮城県	栗原市築館高田	80
	栗原市若柳	168
	登米市南方町	230
	大崎市古川三日町	120
	大崎市田尻小塩	259
	大崎市古川北町	203
	東松島市矢本	712
	塩釜市旭町	586
	大衡村大衡	1,033
福島県	相馬郡新地町	443
		5,450

## ②WEB調査

都道府県	依頼者数	協力者			
		回収率	協力者合計	WEB一般	WEB高度
北海道	693	18.33%	127	109	18
青森県	173	20.23%	35	32	3
岩手県	165	22.42%	37	31	6
宮城県	291	24.40%	71	51	20
秋田県	136	21.32%	29	22	7
山形県	144	21.53%	31	24	7
福島県	248	22.18%	55	46	9
茨城県	370	22.97%	85	69	16
栃木県	250	22.40%	56	47	9
群馬県	248	21.77%	54	45	9
埼玉県	909	21.45%	195	158	37
千葉県	780	22.18%	173	135	38
東京都	1655	21.99%	364	272	92
神奈川県	1136	21.57%	245	194	51
新潟県	292	21.58%	63	53	10
山梨県	106	20.75%	22	18	4
長野県	261	21.07%	55	46	9
静岡県	472	18.43%	87	69	18
大阪府	1110	12.25%	136	112	24
和歌山県	123	16.26%	20	15	5
島根県	86	17.44%	15	13	2
広島県	352	12.78%	45	39	6
合計	10000	20.00%	2000	1600	400

◆性別（郵送調査は不明）

	WEB一般	WEB高度
男性	994	260
女性	606	140
合計	1,600	400

◆年齢構成（郵送調査は不明）

	WEB一般	WEB高度
～20	9	1
21～30	118	31
31～40	371	130
41～50	494	118
51～60	287	56
61～70	129	15
71～	16	6
合計	1,424	357
未回答	176	43

◆家族構成

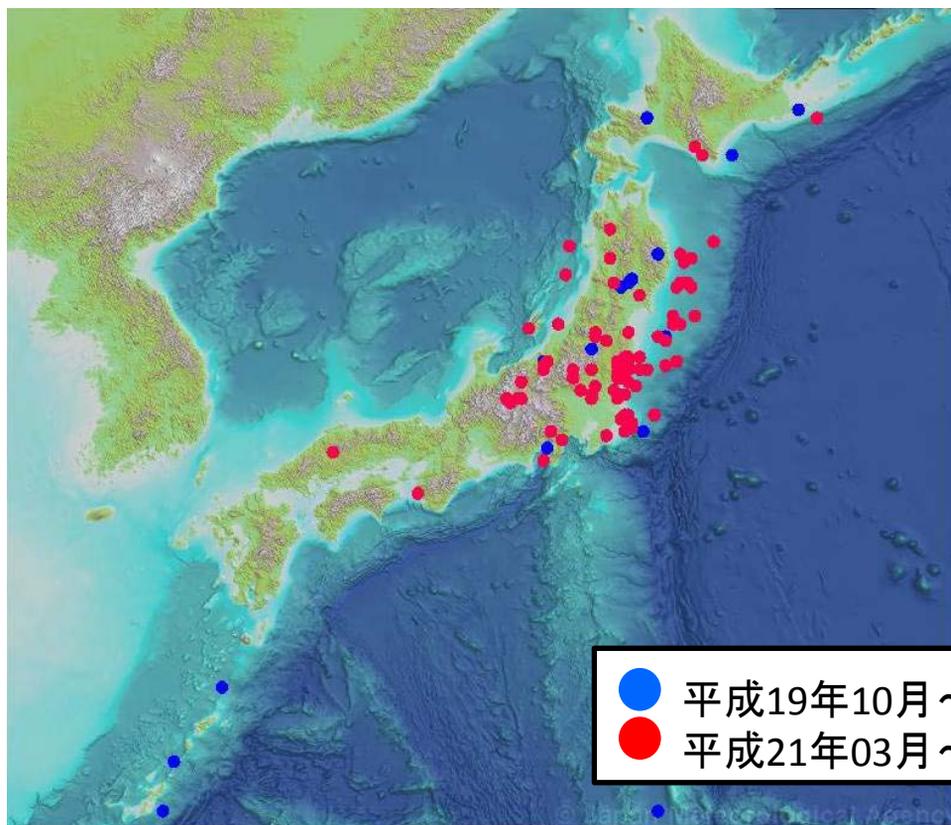
	WEB一般	WEB高度	郵送調査
一人暮らし	212	67	74
夫婦のみ	332	76	191
親と子	879	218	389
親と子と孫	77	20	105
その他( )	100	19	58
合計	1,600	400	817

◆職業別

	WEB一般	WEB高度	郵送調査
会社員	701	226	258
自営業	148	46	90
農林水産業	7	3	54
パートタイム、アルバイト	174	25	76
公務員	94	20	60
主婦、家事手伝い	264	42	108
学生	32	7	2
無職	137	22	169
その他( )	43	9	258
合計	1,600	400	817

郵送調査：「東北地方太平洋沖地震」で揺れの強かった岩手、宮城、福島3県の任意の800名からの郵送回答  
 WEB調査：過去緊急地震速報（警報）を発表した22都道府県の事前登録モニター2,000名からのWEB回答  
 このうち、専用の受信装置等で受信している人をWEB(高度400名)、  
 そうでない人をWEB(一般1600名)に分類

# ○これまでに発表した緊急地震速報



# ○発表した速報の予想精度

